

ると同時に、「やさしさと緑あふれる 活気あるまち やおつ」を目指して、町民の皆さんと共に「協働のまちづくり」を進めて来られました。

しかし、現在八百津町も「少子化」「高齢化」そして「人口減少」など数々の大きな課題に取り組みなければなりません。

八百津町は今年60周年という大きな節目を迎えました。これからも、私たち議会は、町民の皆様と共に「ふるさとをもう一度見直し、将来に向かって新たなふるさとを築く」という気構えを持ち続けなければなりません。こうした中、平成28年1月、任期満了を迎える赤塚町長の出処進退について伺いたい。

答 (赤塚町長)

町制合併60周年となり、合併以来、飯田町制、荒井町制として私と3名で約60年という月日が流れてきました。私も荒井町制の後を継ぎ、「町制というものは継続である」との言葉もいただいております。

私の意に反する事もございましたが、やはり継続という言葉は重要であり、それを大切に20年間努めてまいりました。

お手元に「八百津町政20年間のあゆみ」を配付しておりますが、記載してあります一事業、一事業は、私一人で実施してきたわけではなく、職員や議会の皆様、そして多くの町民の皆様

のご理解を得ながら実施してきたわけで、今思うと、この20年間で多くの諸事業に取り組みることができたと思っております。

平成16年12月の美濃加茂市との合併破綻、当時私は加茂郡の町村会長の職にあり、合併協議の矢面となり美濃加茂市長と共に取り組んで来たわけですが、美濃加茂市の意向調査により破綻となり、八百津町は単独の道を歩むことが決定され、平成17年の当初予算は、より大変厳しい予算編成に取り組みることとなり、各種補助金のゼロ査定を指示、各種団体に対する補助の削減を行いました。また、議会の同意を得て、ゴミ袋についても50円から100円へと段階を経て値上げを実施、但し資源となるゴミ回収は町で無料で行うなどを実施し、町民の理解を得て値上げをしてまいりました。また、平成17年のケーブルテレビ、Cネットの導入であります。全町を隈無くケーブルで繋ぐという、事業費7億数千円をかけた、情報網の整備は重要な事業であるとの思いから実施して参りました。

道路の整備についても、国道の418号線の恵那までの早期開通、可児御高インターまでのアクセス道路の次年度の供用開始、ふるさと林道の整備等を実施して参りました。

その他、着任以来努力して参

りました新丸山ダム建設事業につきましても、井尻八百津線を始め、原石山線等関連事業も進んでおり、本体着工へと近づいてきているものと思っております。

そして、平成22・23年の豪雨災害を教訓としての八百津排水路工事の推進、保育園の統合問題等、検討すべき事柄はいくつもあると思っております。

最後に世界記憶遺産への登録について、国内選考の2点に選考され、来年3月までにユネスコ本部への本申請を行うことになっており、記憶遺産登録への大きなステップは踏み出せたと思っております。

さて、私自身の進退につきまして、大変熟慮しているのが本音であります。現在69歳まもなく70歳となることから、自分自身の幕引きもしなければいけないと思っております。次回で6期目となりますが、政治においては後進に道を譲るべき時期があると私は思っており、1月27日をもって幕引きをしたいと思っております。皆様のご協力にお礼を申しあげ答弁とさせていただきます。



町民のみなさん

八百津町議会を傍聴してみませんか!!

12月定例会は12月7日(月)開会の予定です

詳細は議会事務局までお問い合わせください

☎ 43-2111(内線2302)

一般質問の様子はCCNet(地デジ12ch)で生中継・録画放送されます

